

世界メンタルヘルスデー 映画上映会プロジェクト 2026

in 奈良

世界メンタルヘルスデー
～つながる、どこでも、だれにでも～

映画をみて
語り合い
しましょう!

#せかメン
映画



せかメン映画
公式サイト
最新情報は
こちら



人はつながりで
生かされる

知っているようで知らない
震災後のメンタルヘルス

上映作品

『生きて、
生きて、
生きろ。』



東日本大震災後の福島。

今もなお続く
見えにくい心の傷。

その現実を見つめながら、
「生きる」とは何かを問いかける
ドキュメンタリー映画。

開催日時

9.17 THU 12:40～16:00

会場

児童発達支援・放課後等デイサービスのんたん

奈良市あやめ池南1丁目1番地14号
(駐車場はありません)

料金

無料

スケジュール

12:20 開場
12:40 スタート
13:00 映画鑑賞
15:00 感想シェア・交流会
16:00 終了

途中参加
途中退席
でも大丈夫!

お申し込み方法

QRコードで
お申込み →



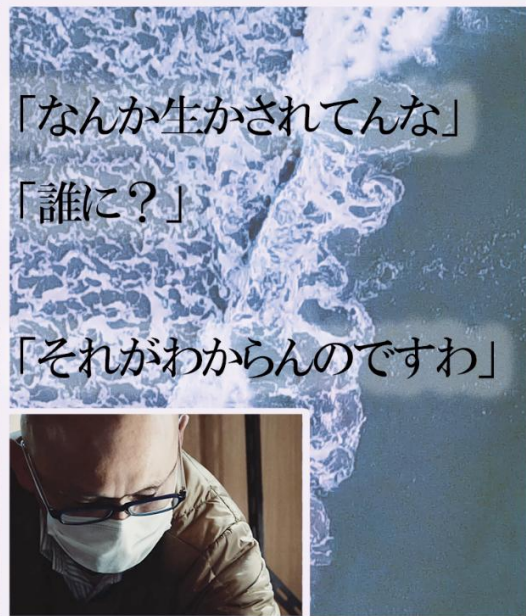
もしくは
下記メールアドレスへ

お問い合わせ

主催: NPO法人あず
訪問看護ステーションCoCo+
itsuka.nara.machi@gmail.com
(CoCo+ 八野)

『生きて、生きて、生きろ。』

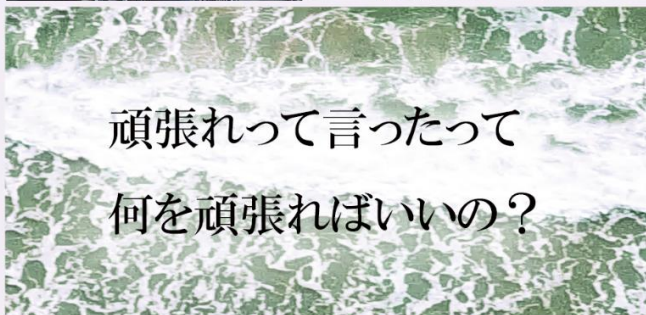
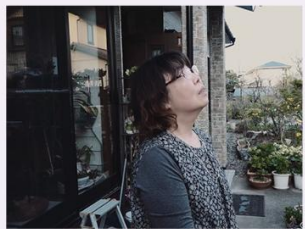
制作・監督・撮影: 島田陽磨 撮影: 熊谷裕達/前川光生/西田豊 編集: 前高健治 音楽: 渡邊崇 助監督・撮影・宣伝美術: 鈴木響 オンラインエディター: 中田勇一郎 効果・整音: 高木創
協力: 医療法人社団メンタルクリニックなごみ NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会 相馬広域こころのケアセンター なごみ 沖縄医療生活協同組合 中部協同病院
2024年/日本/113分/カラー/ドキュメンタリー ©Nihon Denpa News Co., LTD. 制作・配給: 日本電波ニュース社 公式サイト <https://ikiro.ndn-news.co.jp/>



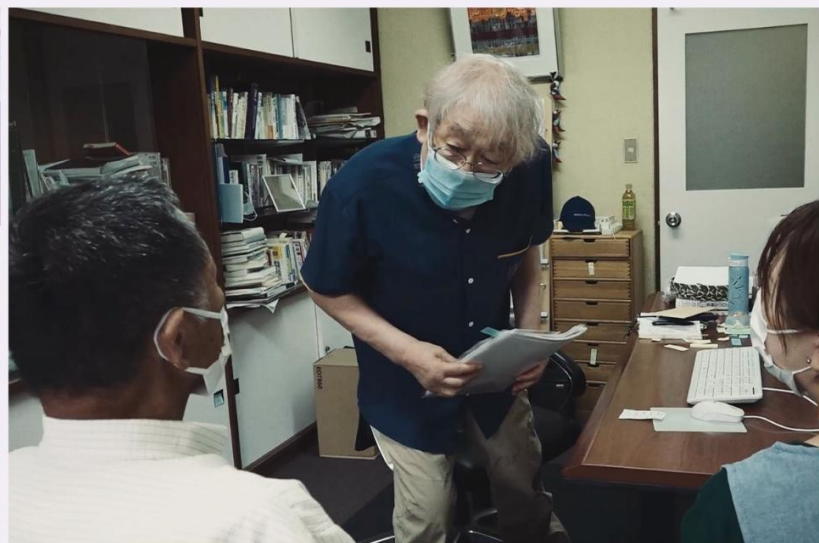
「なんか生かされてんな」

「誰に？」

「それがわからんのですわ」



頑張れって言ったって
何を頑張ればいいのか？



「人間もつと泣かなきゃだめだと思う」

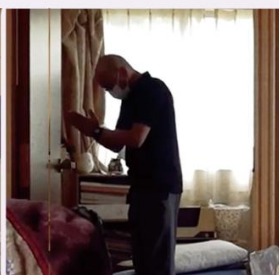
震災と原発事故から13年。福島では、時間を経てから発症する遅発性PTSDなど、こころの病が多発していた。若者の自殺率や児童虐待も増加。メンタルクリニックの院長、蟻塚亮二医師は連日、多くの患者たちと向き合い、その声に耳を傾ける。連携するNPOこころのケアセンターの米倉一磨さんも、こころの不調を訴える利用者たちの自宅訪問を重ねるなど日々、奔走していた。

津波で夫が行方不明のままの女性、原発事故で避難中に息子を自死で失い自殺未遂を繰り返す男性、避難生活が長引く中、妻が認知症になった夫婦など、患者や利用者たちのおかれた状況には震災と原発事故の影響が色濃くにじむ。

かつて沖縄で沖縄戦の遅発性PTSDを診ていた蟻塚医師は、福島でも今後、同じケースが増えていくのではと考えていた。

ある日、枕元に行方不明の夫が現れたと話す女性。「生きていていいんだ」という希望を持った時に人は泣ける」と蟻塚さんは話す。米倉さんは、息子を失った男性にジングリスカンを一緒に焼くことを提案。やがてそれぞれの人々に小さな変化が訪れていく。

喪失感や絶望に打ちのめされながらも日々を生きようとする人々と、それを支える医療従事者たちのドキュメンタリー。



第2回ヘリコプターの会 第2回対面交流会(オフ会)です

支援者同士 自己との対話を通して重なり合う想いを共有



ヘリコプターのように自由に参加でき、ホバリングだけをして様子を見て立ち去ってもいいし、着陸して数分でもいいし、誰かを乗せて一緒にどこかに行っておかしてもいいし。